

## 「実験社会心理学研究」

### 執筆・投稿規定

本誌は、グループ・ダイナミックス、社会心理学における理論的・実証的・方法論的研究、基礎・応用研究、定量的・定性的研究に貢献する未公開の論文、資料、展望、書評などを掲載する。

1. 投稿の資格は、原則として、本学会員に限る。ただし、編集委員会が必要と認めた場合には、この限りではない。
2. 投稿原稿の採否決定、および、修正は、編集委員会による審査を経て行われる。
3. 投稿原稿の構成は以下の通りとする。
  - ① 第1ページには、論文の種別（原著、資料、展望）、和文の論文タイトルと著者名、所属、英文の論文タイトルと著者名、所属、および、著者の連絡先、謝辞だけを記す。
  - ② 第2ページには、和文の論文タイトル、および、和文の要約、和文のキーワードだけを記す（著者名は入れない）。
  - ③ 第3ページ以降に、原稿本文が続く。
  - ④ 最終ページには、英文の論文タイトル、および、英文のアブストラクト、英文のキーワードだけを記す（著者名は入れない）。
4. 和文の要約は500字程度、英文のアブストラクトは100～175語、キーワードは、和文、英文とも3～5語とする。ただし、書評には、和文要約、英文のアブストラクト、キーワードは必要ない。
5. 投稿は、e-mail への添付ファイルとして送信すること。添付ファイルとして投稿する場合は、図表も含めてできるだけ一つのファイルにまとめ、MS-Word または PDF 形式で学会の編集事務局のアドレス (jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp) まで送信すること。
6. 原稿はワープロ打ちを原則とする。用紙はA4（縦置き）を用い、1ページは、横40字（全角文字で）×縦30行とする。
7. 表は、本文と同じA4の用紙を用い、1枚の用紙に1つの表を書く。表には、表1、表2のように通し番号を付け、表の表題も同じ用紙に明記すること。
8. 図は、本文と同じA4の用紙を用い、1枚の用紙に1つの図を書く。図には、図1、図2のように通し番号を付け、図の表題も同じ用紙に明記すること。
9. 表と図の挿入箇所は、本文中に、3行を用いて以下のように示す。

-----  
表1を挿入  
-----

10. 本文中で、見出しなど、ゴシック体での印刷となる箇所には波線のアンダーライン (~~~~~) を、また、統計記号などイタリック体での印刷となる箇所には実線のアンダーライン (\_\_\_\_\_) を引くこと。
11. 引用文献は、本文中では、佐藤 (1985)、(佐藤, 1985) のように引用し、本文末尾（すなわち、上記3項④の最終ページの直前）に、下記の例に従って、著者のアルファベット順に引用文献リストをつける。このとき、和文、欧文を問わず、ボールド体での印刷となる雑誌の巻数には波線のアンダーラインを、また、イタリック体での印刷となる欧文の雑誌名および書名には実線のアンダーラインを引くこと。なお、この点に関して、詳細は日本心理学会（編）「心理学研究執筆・投稿の手びき」（2005年版〈修正版〉）の関連部分を参照のこと（ただし、和文の引用文献について、それを英訳したものを記す必要はない）。
  - ① 和文の単行本の場合：  
三隅二不二 (1978). リーダーシップ行動の科学 有斐閣
  - ② 和文の雑誌の場合：  
田崎敏昭 (1981). 教師のリーダーシップ行動類型と勢力の源泉 実験社会心理学研究, 20, 137-145.
  - ③ 欧文の単行本の場合：  
Raven, B. H., & Rubin, J. Z. (1976). Social Psychology: People in Groups. New York: John Wiley.
  - ④ 欧文の雑誌の場合：  
Sugiman, T. (1998). Group dynamics in Japan. Asian Journal of Social Psychology, 1, 51-74.
12. 原著論文は原則として刷り上がり10ページ以内、資料論文は刷り上がり7ページ以内、展望論文は原則として刷り上がり16ページ以内とする。なお、原著論文と展望論文については、編集委員会が必要とみなした場合にはこの限りではない。ただし、原則とするページを超過する場合、その扱いについては、別に定める内規に従うものとする。
13. 本誌に掲載された論文の著作権は、日本グループ・ダイナミックス学会に帰属する。